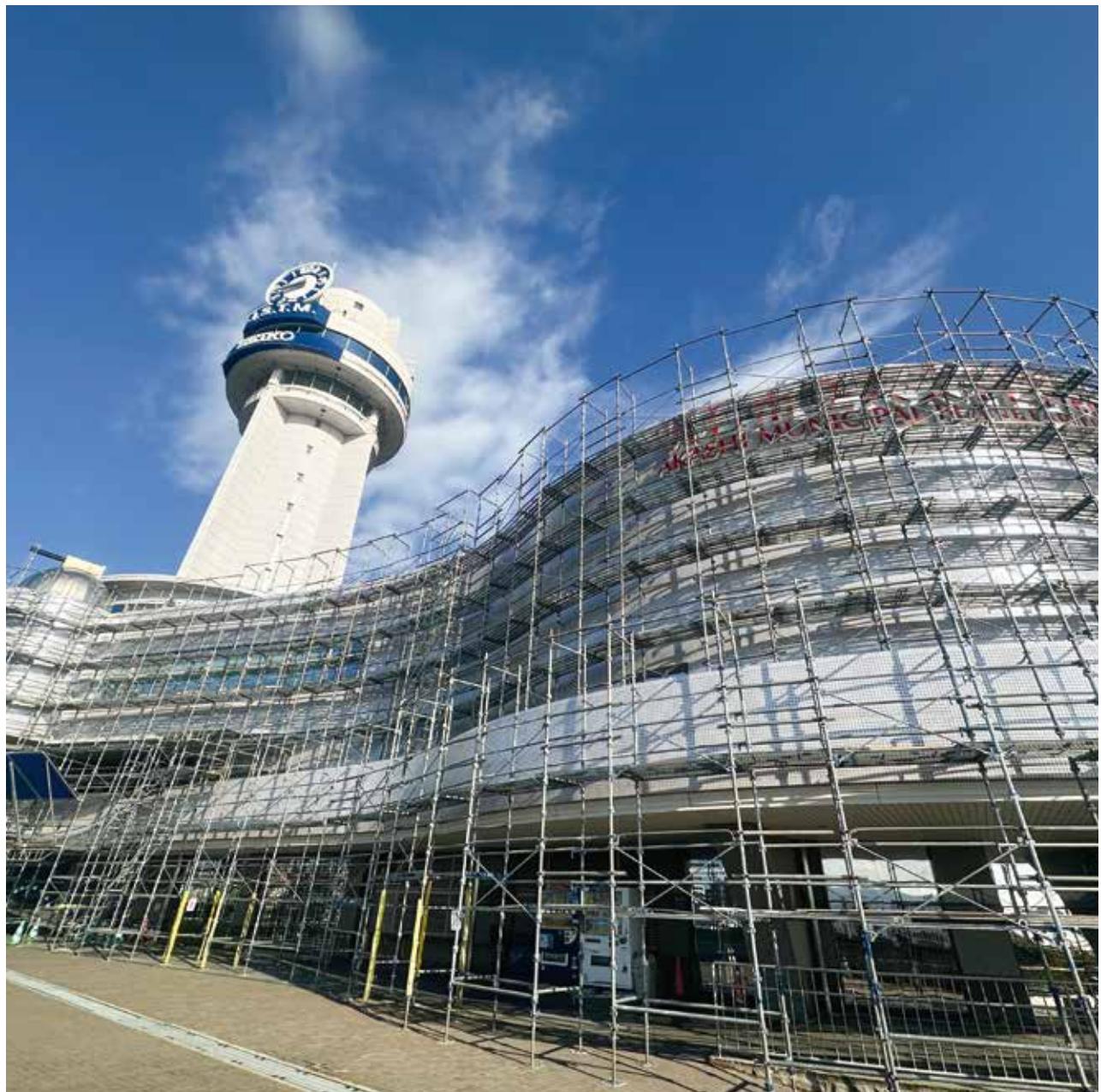


特集 2026年の天文現象



工事中の天文科学館

1月

- 1日 元日(明石の初日の出は07:07)
 3日 月と木星が並ぶ
 4日 しぶんぎ座流星群が極大
 5日 小寒
 7日 レグルス食
 7日 金星が外合
 9日 火星が合
 10日 木星が衝
 20日 大寒
 23日 月と土星が並ぶ
 31日 月と木星が並ぶ

2月

- 4日 立春
 19日 雨水
 19日 月と水星・土星が並ぶ
 20日 水星が東方最大離角
 27日 月と木星が並ぶ

3月

- 2日 レグルス食
 3日 皆既月食(部分食の開始18:49 皆既の開始20:03 食の最大20:33 食分1.2 皆既の終了21:02 部分食の終了22:17)
 5日 啓蟄
 8日 金星と土星が並ぶ
 20日 春分
 20日 月と金星が並ぶ
 22日 海王星が合
 25日 土星が合
 26日 月と木星が並ぶ

4月

- 4日 水星が西方最大離角
 5日 清明
 19日 月と金星が並ぶ
 20日 穀雨
 22日 月と木星が並ぶ
 23日 こと座流星群が極大

5月

- 5日 立夏
 6日 みずがめ座η(エータ)流星群が極大
 14日 月と土星が並ぶ(明け方)
 19日 月と金星が並ぶ
 20日 月と木星が並ぶ
 21日 小滿
 22日 天王星が合
 31日 2026年最小の満月

6月

- 6日 芒種
 9日 金星と木星が並ぶ
 10日 月と土星が並ぶ(明け方)
 13日 月と火星が並ぶ(明け方)
 16日 水星が東方最大離角
 17日 月と水星・金星・木星が並ぶ
 20日 金星がフレセベ星団に侵入
 21日 夏至



2026年の天文現象

特集



2026年
2月中旬
午後8時ごろ
の星空



2026年
8月上旬
午後9時ごろ
の星空



2026年
5月上旬
午後9時ごろ
の星空



2026年
11月上旬
午後9時ごろ
の星空



- 7日 小暑
 7日 月と土星が並ぶ
 12日 月と火星が並ぶ(明け方)
 17日 月と金星が並ぶ
 23日 大暑
 29日 木星が合
 31日 みずがめ座δ(デルタ) 南流星群が極大

- 2日 水星が西方最大離角
 3日 月と土星が並ぶ
 7日 立秋
 9日 月と火星が並ぶ(明け方)
 13日 ベルセウス座流星群が極大
 15日 金星が東方最大離角
 16日 水星と木星が並ぶ(明け方)
 16日 月と金星が並ぶ
 19日 旧暦七夕
 23日 出暑
 31日 月と土星が並ぶ

- 7日 月と火星が並ぶ(明け方)
 7日 白露
 9日 月と木星が並ぶ(明け方)
 14日 月と金星が並ぶ
 19日 金星が最大光度
 23日 秋分
 25日 中秋の名月
 26日 海王星が衝
 27日 月と土星が並ぶ

- 4日 土星が衝
 5日 月と火星が並ぶ(明け方)
 7日 月と木星が並ぶ(明け方)
 8日 寒露
 9日 りゅう座(10月) 流星群(ジャコビニ流星群)が極大
 12日 火星がフレセベ星団に侵入
 12日 水星が東方最大離角
 13日 月と水星が並ぶ
 22日 オリオン座流星群が極大
 23日 霜降
 24日 金星が内合
 24日 月と土星が並ぶ

- 2日 フレセベ星団食
 2日 おうし座南流星群が極大
 3日 月と火星・木星が並ぶ(明け方)
 7日 立冬
 7日 月と金星が並ぶ(明け方)
 12日 おうし座北流星群が極大
 16日 火星と木星が並ぶ(明け方)
 18日 しし座流星群が極大
 20日 月と土星が並ぶ
 21日 水星が西方最大離角
 22日 小雪
 24日 フレアデス星団食
 26日 天王星が衝
 30日 金星が最大光度
 30日 月と火星・木星が並ぶ

- 5日 月と金星が並ぶ(明け方)
 7日 大雪
 14日 ふたご座流星群が極大
 18日 月と土星が並ぶ
 22日 冬至
 24日 2026年最大的満月
 27日 月と木星が並ぶ
 28日 月と火星が並ぶ

天文みごろ カレンダー

2026年の夜空のみごろを表にしています。
表をもとに、夜空を観察してみましょう。

表の見方

月の暦 月がこの状態になる日

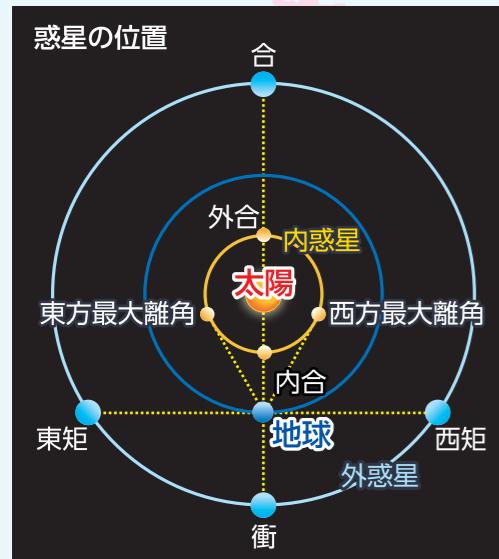
月の見え方 月の見え方

この状態のよい方 この状態のよい方

望(満月) 下弦 朔(新月)
上弦

惑星(水星・金星・火星・木星・土星・天王星・海王星)

惑星の見え方は、太陽と惑星と地球の位置関係によって決まります。地球から見て太陽と同じ方向に惑星があるときを「合(ごう)」といい、合にある惑星は見えません。また、地球から見て太陽と反対側に惑星があるときを「衝(じょう)」といい、衝にある惑星は一晩中見えます。



● 衝 ……真夜中に南中、観測好機

● 西矩 ……日出時に南中。明け方の東空に見える

● 東矩 ……日入時に南中。夕方の西空に見える

● 西方最大離角 ……明け方の東空に見える

● 東方最大離角 ……夕方の西空に見える

● 合・内合・外合 ……太陽の方向にあり観測できない

● かに座 ……カレンダー上の星座名は、その時期に惑星が位置するところにある星座です。たとえば、金星は6月頃、かに座のあたりに見えます。

● 流星群 ……流星群極大日

● 日食・月食 ……天体がかくされる現象

*記号上の日付は、それぞれの現象がおこる日です。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
月の暦	3 11 19 26 望 下弦 朔 上弦	2 9 17 24 望 下弦 朔 上弦	3 11 19 26 望 下弦 朔 上弦	2 10 17 23 31 望 下弦 朔 上弦 望	2 10 17 23 望 下弦 朔 上弦	8 15 22 30 下弦 朔 上弦 望	8 14 21 29 下弦 朔 上弦 望	6 13 20 28 下弦 朔 上弦 望	4 11 19 27 下弦 朔 上弦 望	3 11 19 26 下弦 朔 上弦 望	2 9 17 24 下弦 朔 上弦 望	1 9 17 24 31 下弦 朔 上弦 望 下弦
水星	外合 22日 夕方西の空に見える	東方最大離角 20日 夕方西の空に見える	内合 7日 明け方東の空に見える	西方最大離角 4日 明け方東の空に見える	外合 14日	東方最大離角 16日 夕方西の空に見える	内合 13日 明け方東の空に見える	西方最大離角 2日 明け方東の空に見える	外合 28日	東方最大離角 12日 夕方西の空に見える	内合 4日 夕方西の空に見える	西方最大離角 21日 明け方東の空に見える
金星	外合 7日		うお座 おひつじ座 おうし座 ふたご座 かに座 しし座 宵の明星として夕方西の空に輝く							内合 24日 おとめ座 30日 おとめ座 てんびん座		最大光度
火星	合 9日					おひつじ座 おうし座 ふたご座 かに座 しし座 明け方に見える					西矩 20日 しし座	
木星	衝 10日 一晩中見える		ふたご座 東矩 6日 夕方に見える	ふたご座		合 29日					西矩 18日 明け方に見える	
土星	みずがめ座 うお座 合 25日		うお座 西矩 6日 明け方に見える	うお座 西矩 6日 明け方に見える		うお座 西矩 4日 一晩中見える	うお座 西矩 4日 一晩中見える	うお座 西矩 4日 一晩中見える	うお座 西矩 4日 一晩中見える	東矩 30日 夕方に見える		
天王星	おうし座 東矩 16日 夕方に見える			合 22日	おうし座 西矩 29日 明け方に見える	おうし座 西矩 29日 明け方に見える	おうし座 西矩 29日 明け方に見える	おうし座 西矩 29日 明け方に見える	おうし座 西矩 29日 明け方に見える	衝 26日 おうし座		
海王星	うお座 合 22日				うお座 西矩 26日 明け方に見える	うお座 西矩 26日 明け方に見える	うお座 西矩 26日 明け方に見える	うお座 西矩 26日 明け方に見える	うお座 西矩 26日 明け方に見える	東矩 23日 夕方に見える		
流星群	極大 4日 しぶんぎ座流星群 毎年多数出現する流星群ですが、2026年は月明かりがあるため、条件はよくありません		こと座流星群 極大 23日	みずがめ座&南流星群 極大 6日 みずがめ座&南流星群 毎年多数出現する流星群ですが、2026年は月明かりがあるため、条件はよくありません	ペルセウス座流星群 極大 13日 毎年多数出現する流星群ですが、2026年は月明かりがあるため、条件はよくありません	みずがめ座&南流星群 極大 31日 みずがめ座&南流星群 毎年多数出現する流星群ですが、2026年は月明かりがあるため、条件はよくありません	リュウ座(10月)流星群 極大 9日 毎年多数出現する流星群ですが、2026年は月明かりがあるため、条件はよくありません	オリオン座流星群 極大 22日 毎年多数出現する流星群ですが、2026年は月明かりがあるため、条件はよくありません	しし座流星群 極大 18日 毎年多数出現する流星群ですが、2026年は月明かりがあるため、条件はよくありません	ふたご座流星群 極大 14日 毎年多数出現する流星群ですが、2026年は月明かりがあるため、条件はよくありません		
その他	日本では見えません 金環日食 皆既月食 南極 17日 詳しく述べる6ページ					日本では見えません 皆既日食 部分月食 グリーンランド・スペインなど	日本では見えません 皆既日食 部分月食 北米東部・中南米など					

トピック



金星と木星の接近 6月9日~10日

金星（-4.0等）と木星（-1.9等）が近くに並んだ姿を、午後8時頃、西の空でみつけることができます。

金星と木星はどちらもとても明るくみることができる惑星です。2つの惑星が並ぶことで、より空での存在感が増すことです。

2~3ページには他にも「惑星同士が並ぶ日」や「惑星と月が並ぶ日」も紹介しています。

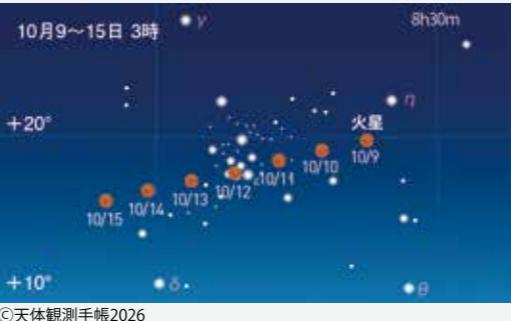
また、4~5ページには、それぞれの惑星たちが見える時期を掲載しています。



火星がプレセペ星団に侵入 10月12日

かに座にあるプレセペ星団の中に火星と一緒に輝きます。10月12日の前後数日、火星を観察すると、火星の位置が少しづつ変化していきます。プレセペ星団を火星が通過する様子をみることができます。

未明から明け方の東の空で楽しむことができます。プレセペ星団は街明かりの少ない場所では目視も可能ですが、双眼鏡があるとより楽しむことができるでしょう。



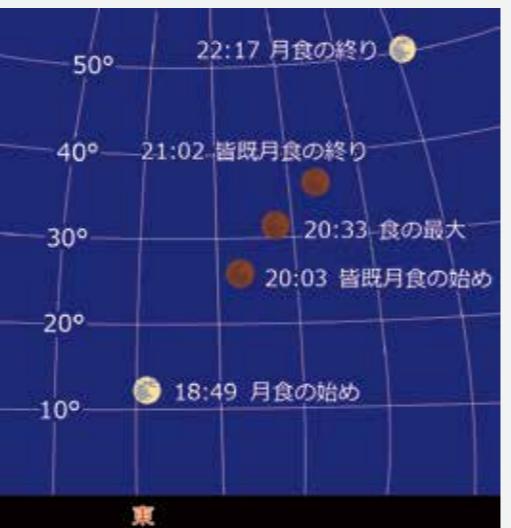
皆既月食

月食は、太陽と地球と月が一列に並び、太陽に照らされた地球の影に月が重なる現象です。その中でも、月の全体が地球の影と重なることを皆既月食といいます。皆既月食では、太陽の光の中の赤い光だけが月に届くため、月が赤褐色に輝きます。月の一部に影がかかり、光に照らされた部分の形が変わる様子や、月の色の変化を楽しむことができます。

3月3日の月食は、夜のはじめ頃から夜遅くにかけて全国的に楽しめる天文現象です。

次に、日本でみられる皆既月食は、2029年1月1日の未明です。

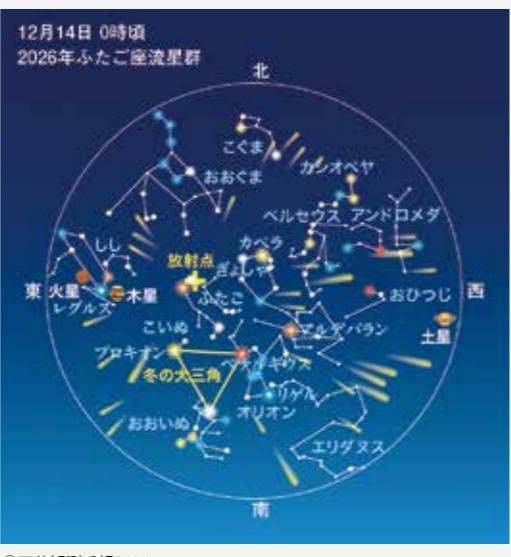
月食については、7ページ「てんもん教えてキッズコーナー」もご覧ください。



流星群

流星群は、毎年決まった頃にたくさんの流れ星がみられる天文現象です。流星群のもとになっているのは、彗星などが宇宙にまき散らしたチリです。チリが地球の大気にぶつかることで、明るく輝く流れ星としてみえます。毎年多くの流れ星が出現する三大流星群のうち、1月4日のしづく座流星群は、満月のため条件はよくありません。8月13日のペルセウス座流星群は、新月のため好条件です。8月13日の日中がピークのため8月12日~13日の夜、8月13日~14日の夜が見頃です。12月14日のふたご座流星群もおすすめです。14日20時頃がピークのため、14~15日の夜が見頃です。特に14日22時頃に月が沈んだ後たくさんの流れ星がみられる予想です。

流星群は、放射点を中心に広がるように流れ星が現れます。しかし、空のどこに現れるかはわかりません。なるべく広く空をみわたせる場所で、のんびりと流れ星を探してみましょう。

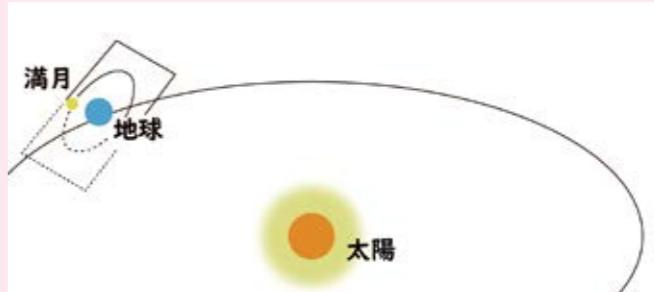
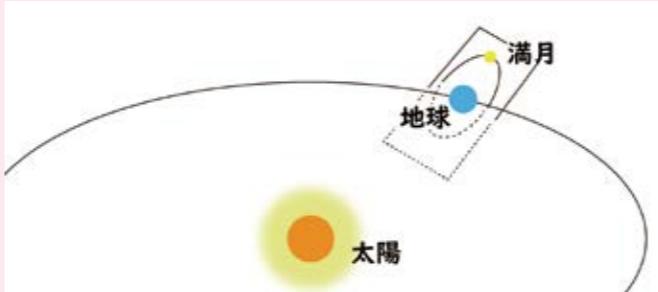


皆既月食のふしぎ

2026年3月3日、皆既月食があるぞ。皆既月食についてくわしく見ていくう！

Q 満月のたびに月食が起こらないのはなぜ？

A 月食は、太陽-地球-月と並んだとき、つまり、満月の時に起こる現象だ。でも満月のたびに月食が起こるわけではないぞ。それは、地球が太陽の周りをまわる軌道面に対して、月が地球の周りをまわる軌道面が、かたむいているためだ。



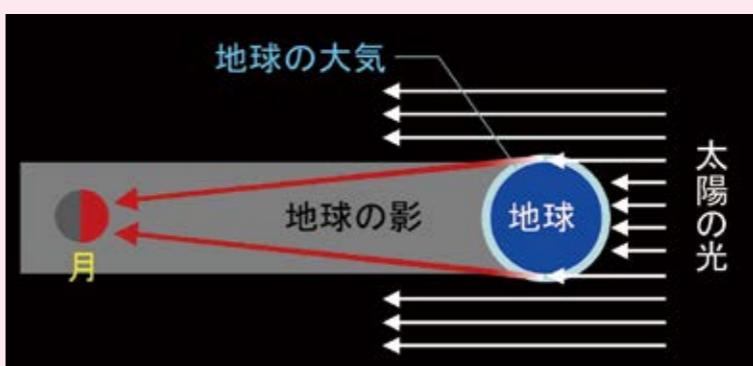
地球が太陽の周りをまわる軌道面より月が北や南側にあると、月食にならない
地球が太陽の周りをまわる軌道面付近に月があると、月食になります

Q 月は、皆既月食の時にどうして赤っぽく見えるの？

A 地球のまわりには大気の層があり、地球を照らす太陽の光は、この大気の層へも入ってくるんだ。大気の層へ入ってきた太陽の光は、屈折して（曲げられて）、月に届くぞ。太陽の光には、もともといろいろな色がまざっているけど、大気の中を通りながら、青い色の光は散乱し、だんだんとなくなり、大気の中を通りやすい赤い色の光だけが、月に届くんだ。



月食が起こる夜は、満月の中でも、特別な夜なんだ！



皆既月食中の赤っぽい色は、大気の状態によって毎回違っているぞ！色もしっかり観察しよう！



「月食ってどんな現象？」
「月が欠けていくんだムーン！」



イベントレポート



EVENT REPORT

教員のための博物館の日

7月25日(金)

学校の先生を対象に、当館の学習資源を紹介し、当館に訪れてもらうきっかけを作り、当館に親しみを持ってもらうことを目的として、「教員のための博物館の日」を開催しています。

今回で9回目の開催となり、47名の参加者がありました。参加者は、小学校4年生を対象としたプラネタリウム学習投影を観た後、大型望遠鏡による宇宙の星の観察や、授業等で使える科学工作などを行いました。

参加された先生からは、今後の授業等に活用したいという声が聞かれました。普段できない体験を先生自身に楽しんでもらうことができました。



高校生によるプラネタリウム投影

7月31日(木)、8月1日(金)

県下の高校生がプラネタリウム投影について学び、一般の来館者に四季の星空を案内する特別投影が実施されました。これは、県教育委員会と県内のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校が実施主体となる「五国SSH連携プログラム」のひとつで、今年は4校から約26名の生徒が参加しました。

高校生たちは解説のポイントなどの講習を受け、プラネタリウムを見学した後、6つのグループに分かれて他校の生徒と協力しながら担当の季節についての解説を考えました。本番前は緊張した面持ちでしたが、星空の下で楽しく堂々と解説し、投影後には大きな拍手が起きました。



天文科学館×あかし市民図書館×文化博物館 コラボイベント

「星空の下のおはなし会」

8月2日(土)

文化博物館で開催された夏季特別展「そうぞうのかけら 砂で紡ぐたなこしの物語」に関連し、絵本作家・たなかしんさんの絵本をテーマに、前半は読み聞かせ、後半はこども向けにブックトークを行いました。前半は、あかし市民図書館の司書の方の朗読に合わせて、たなかさんの絵本『ゾウとクジラ』の各ページをプラネタリウムに投影し、星空や映像、音楽と共に楽しんでいただきました。読み聞かせの後には、たなかさんによる絵本製作秘話も伺うことができました。後半のブックトークでは、星空をテーマにした本や、たなかさんの絵本を楽しいクイズを交えながらご紹介いただきました。子どもから大人までたくさんの方にお楽しみいただきました。



岡本 晃さん講演会

8月10日(日)

CGデザイナーの岡本晃さんによる講演会を開催しました。岡本さんは、人気キャラクター「シゴセンジャー」や「ジャンボブラック星博士ロボβ」の生みの親です。

講演では、天文科学館の思い出や、これまでに制作した作品の紹介、「シゴセンジャー」の制作秘話が語られました。さらに、新作映像も公開されました。



夏休み・児童生徒作品展～小学生の部～

9月13日(土)～9月28日(日)

市内の小中学生が夏休みの自由研究として制作した作品の展示を行う「夏休み・児童生徒作品展」。9月には小学生の部として、市内小学生の作品116点を展示しました。段ボールを使用してプラネタリウムを作成した「家で作ったプラネタリウムはどうやったら本物に近づくのか」や素材によって涼しさがどのように異なるのかを調べた「どの服が一番涼しいのか？」など、身近な疑問や興味を追求した力作が並びました。来館された方からも着眼点やアイデアなどに关心する声が聞かれました。

博物館実習

9月2日(火)～7日(日)

学芸員資格取得を目指す大学生が博物館で実習を行う博物館実習。今年度は5名の実習生が参加し、博物館での業務を学びました。発声練習や開館準備から始まり、幼稚園での紙芝居実演や天体観望会補助など天文科学館ならではの実習を行いました。また、実習生自らがプラネタリウムの原稿を作成し、来館者への解説を行うというプログラムでは、緊張しつつもお客様に「伝わる」解説ができたのではないかと感じています。今回の実習が将来の糧になることを願っています。



星と音楽のプラネタリウム

7月31日(木)、8月1日(金)

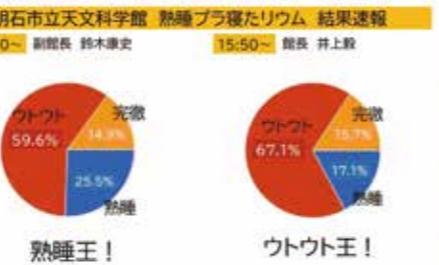
大神智絵さん(サクソフォン)・田中志帆さん(ピアノ)による素敵な演奏とともに、その日の星空や9月8日の皆既月食の映像、月から見た地球の姿をお楽しみいただきました。「銀河鉄道999」や「いのちの歌」「オー・シャンゼリゼ」など、素敵な楽曲の生演奏と星空とのコラボに感動の声がアンケートに寄せられました。



熟睡プラ寝たりウム

9月23日(火・祝)

毎年、11月23日(勤労感謝の日)に実施する「熟睡プラ寝たりウム」を今年は、工事に入る前の9月に実施しました。この特別投影は、日頃お疲れの皆さんを解説者が熟睡へと誘うイベントです。「いびき席」からは、心地よい寝息・いびきが聞こえてきました。イベント後は出口で、参加証明書が配布され、各回の熟睡率が公式SNSで発表されました。「熟睡王」は、鈴木副館長!「ウトウト王」が、井上館長でした!



お月見ナイトミュージアム

9月28日(日)

今年のお月見ナイトミュージアムでは、プラネタリウムの星空の下「辛島みみ子 with Friends」の素敵なジャズ音楽をお届けしました。「お月見」ということで、「It's Only A Paper Moon」「Moon River」など月にちなんだ楽曲も演奏されました。プラネタリウムでは月旅行や火星の衛星フォボスの映像が映し出されたほか、辛島さんと井上館長の楽しいお話しもあり、暑い日が続く中ではありました。秋のお月見を楽しんでいただくことができました。



シゴセンジャー セプテン場所

9月27日(土)・28日(日)

軌道星隊シゴセンジャーとブラック星博士が登場するプラネタリウム。今回は特別に休館直前の9月(September)に行われました。いつも通りプラネタリウムの解説台を乗つ取るブラック星博士に「ど(土)ってん(天)かい(海)め～(冥？メエ～？)」という会場からの掛け声、シゴセンジャー・レッドとブルーにブラックほしむすめも登場するなど、盛りだくさんのプラネタリウム投影でした。天文科学館でのシゴセンジャー場所はしばらくお休みとなります。次は子午線ホールの巡回場所などでお会いしましょう！



9月6日 9(ク)6(ロ)の日！

●クロの日！スペシャル企画「ブラック星博士の爆笑天文教室」

ブラック星博士がプラネタリウムをジャック！ダジャレだらけの天文講座を行いました。客席は小さなお子様から大人の方までブラック星博士ファンが詰めかけました。夏休み期間に募集したダジャレコンテスト優秀作品の発表や恒例のクイズの他、ブラック星博士の故郷であるブラックホールへの旅などバラエティに富んだ内容で、会場は終始笑いに包まれていました。



●9-6=サン(3)陽電車コラボイベント！

クロの日当日、館内は黒や紫、ブラック星博士のダジャレで飾りつけられました。また、9-6=サン(3)陽電車とのコラボイベントとして、キーホルダーやトートバッグ、アクリルスタンドガチャなどのグッズ販売や、運転士の制服や制帽を着用しての撮影会などが行われました。普段は手に入らない山陽電車のグッズを買い求める方や、運転士の格好をして撮影する子供たちで賑わっていました。



長期休館直前 開館ラストデー特別イベント

●あかし★てんもんラジオ配信

YouTubeチャンネルで井上館長がパーソナリティとなり音声配信を行いました。会場となった天文サロンは大変多くの方で賑わっていました。

職員からは、それぞれの天文科学館おすすめスポットの紹介を行いました。来館者の方からは、天文科学館の思い出や熱い想いを伺うことができました。

多くの方と共に作り上げた天文科学館ならではの配信となりました。



●クロージング・フォトタイム

シゴセンジャー・レッドとブラック星博士が登場し、再開の日への期待とともに、出口扉のシャッターを下ろすフォトタイムを行いました。出入口前には、学校帰りの小学生から全国各地より訪れた方まで約300名が集まり、丸谷明石市長の挨拶の後、みんなでシャッターが下ろされる瞬間を見守りました。



●史上最短(?) タイムカプセル～メッセージブラックホール～

9月30日までの開館中、約1年後の自分や家族、友人に向けたメッセージを投函できるように、館内にブラックホール型のポストを設置しました。リニューアルオープン後、館内にメッセージを掲示します。



館長コラム

天文の魅力ってなんでしょう？



2025年秋に現れたレモン彗星（C/2025 A6）立派な美しい尾を持つ彗星になり、驚きました。ふしきですねえ。
2025年11月3日 18:15~20
電子望遠鏡 SeestarS50で撮影

先日、「天文の魅力ってなんでしょう？」という質問をいただきました。私にとっては、天文というものは魅力のカタマリみたいな存在なので、あらためて考えると、なかなかまとまりません。最終的に、「溢れる魅力が魅力」というよくわからない感じの返事になってしまいました。後日、あらためて考えてみると中々面白いテーマで、考えがまとまるのにちょっと時間がかかりましたが、魅力を以下の3つの要素に整理してみました。

①うつくしさ

満天の星、月のクレーター、土星のリング、日食、月食、星雲、銀河、いろんな物理法則・・・これらには、「美」を感じます。

②ふしき

なぜ星は光るのだろう？なぜこんな形なんだろう？なぜこんな現象がおこるのだろう？「ふしき」「神秘」「感嘆」という気持ちが湧き出できます。

③あどろき

宇宙は大きく、いろんな天体があり、歴史があり、謎が多い。想像を超えてびっくりします。

これらが混ざって天文の魅力かな、と思うのですが、いかがでしょうか？個人的にはしっかり来ているので、同じ質問があれば次はこのように応えようと思います。

さて、天文科学館は現在工事中。2026年の夏、リニューアル予定です。天文の魅力にふれることができるような場所になるよう整備をしていきたいと考えているところです。

館長 井上 毅

「星空のレシピ」に広告を掲載希望の業者の方は、明石市立天文科学館までご連絡ください。

〈広告〉



街中 家族で気軽に 天体観測♪

スマート望遠鏡 **DWARF 3** ¥79,199(税込)

持ち運びしやすい！スマホで簡単操作！
星だけでなく太陽や動物も撮影可能



エムツーエム・インコーポレーテッド 星見屋事業部
<https://hoshimiya.com/>
〒145-0063 東京都大田区南千束 1-13-14
Tel 070-5575-4438



詳細はコチラ

1月～3月イベント情報



EVENT INFORMATION

天文科学館展IN文化博物館(2026年全国カレンダー展)

～1月18日(日)※年末年始(12/29～1/3)・1/5は休館

全国の企業や公共施設、動物園などが発行する2026年カレンダーを展示する「2026年全国カレンダー展」の他、暦に関する展示を行います。



2025年全国カレンダー展展示風景

ミート・ザ・天文科学館 at あかし市民広場

1月23日(金)～25日(日)、2月13日(金)～15日(日)

移動式プラネタリウムやワークショップ、宇宙のパネル展示等、休館中の天文科学館が、あかし市民広場にやってきます！

会場：あかし市民広場



※開催時間などの詳細は、ホームページでご案内します。

令和7年「宇宙の日」記念行事

全国小・中学生 作文絵画コンテスト 作品展

1月18日(日)～2月8日(日)

毛利衛宇宙飛行士がスペースシャトルで初めて宇宙へ飛び立った9月12日が「宇宙の日」に選定されたことを記念し、平成5年(1993年)から「宇宙の日」作文絵画コンテストが開催されています。

今年度のテーマは「月面都市～みんなが想像する自由な未来～」です。天文科学館で受け付けた作品のうち、優秀作品を展示します。

会場：イオン明石ショッピングセンター



2024年度展示風景

ミート・ザ・天文科学館 at イオン明石ショッピングセンター

2月8日(日)

「宇宙の日」記念行事 全国小・中学生 作文絵画コンテスト作品展優秀作品の表彰式の他、ワークショップなどを開催します。

会場：
イオン明石ショッピングセンター



※開催時間などの詳細は、ホームページでご案内します。

シゴセンジャーも登場！

特別展「SSP展『自然を楽しむ科学の眼』」

3月7日(土)～29日(日)

日本自然科学写真協会(SSP)は自然科学写真にたずさわるプロ及びアマチュアの写真人の集まりです。動物、植物、昆虫といった生き物や天体、風景など、ミクロからマクロまでの世界の科学の視点で撮影した自然科学写真を展示します。

会場：
明石市立勤労福祉会館ギャラリー



2025年度SSP展展示風景

※火曜日休館

天体観望会(明石公園)

1月31日(土) 18:00～19:30
2月28日(土)、3月28日(土) 18:30～20:00

土星や木星など、その夜に見られる天体を望遠鏡で観望します。

参加方法：当日受付。開催時間内に会場にお越しください。

会場：明石公園東芝生広場



皆既月食特別観望会・ライブ中継

3月3日(火)

皆既月食をみんなで観望しませんか。月の欠け具合や色にも注目です。

※会場、開催時間などの詳細は、ホームページでご案内します。



皆既月食 (2025年9月8日)

その他のイベント

おうちで天文科学館

2025年10月からの休館期間中、注目の天文現象などを紹介する「おうちで天文科学館」を、天文科学館YouTubeチャンネルで毎月配信します。シゴセンジャーも登場します。



YouTubeチャンネル QRコード

2025年10月1日～ 2026年夏頃(予定)まで 全面休館します

休館中も天体観望会、移動プラネタリウムなど出張イベントを開催！詳しくは当館ホームページをご覧ください。



施設概要

日本標準時の基準となる東経135度子午線の通過地に建てられた「時と宇宙の博物館」です。プラネタリウムは現役では日本最古、稼働期間も日本一です。



- JR明石駅下車 東へ1km(徒歩約15分)
- 山陽電車人丸前駅下車 北へ約0.2km(徒歩約3分)
- 車では国道2号線人丸前交差点から北へ約0.2km
- 第二神明道路 大蔵谷I.C.から南西へ約3km
- 明石海峡大橋からは垂水出口を左折し、約6kmで国道2号線へ。国道2号線を西へ約4km(約20分)

明石市立天文科学館

<https://www.am12.jp/>
X(旧ツイッター)@jstm135e
〒673-0877 兵庫県明石市人丸町2-6
TEL.078-919-5000/FAX.078-919-6000
e-mail: otoiawase-tenmon@city.akashi.lg.jp



SEIKO
EMBLEM



時間、それは宇宙からの贈りもの

移ろう光によって様々に変化する表情が空間にアクセントを添えます。
確かな時を刻む衛星電波ムーブメント採用。

SEIKO

